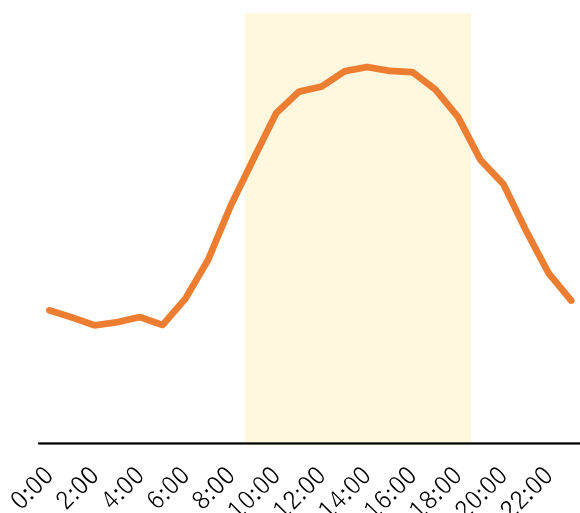


■ オフィスビルの省エネ ■

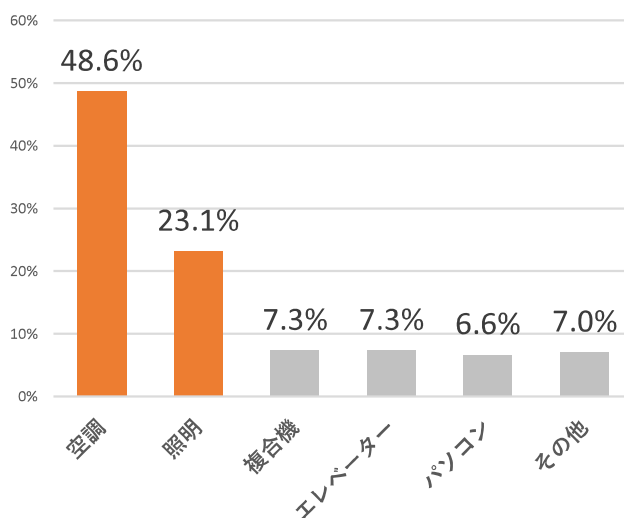
オフィスビルの電力消費の特徴

オフィスビルにおいては、9時～18時頃に高い電力消費が続く傾向があります。



電力消費の内訳（17時頃）

オフィスビルにおいては、消費電力のうち、空調が約49%、照明が約23%を占めます。これらの分野における省エネ対策は特に有効です。



基本アクション

		建物全体に対する省エネ効果
照明	執務室の照明を半分程度間引きする（労働安全衛生規則基準値（精密作業300Lx、普通作業150Lx、粗い作業70Lx）にもご注意ください。）	12.7%
	使用していないエリア（会議室・廊下等）を消灯する。	3.3%
空調	執務室の冷やしすぎに注意し、無理のない範囲で室内温度を上げる（右記の省エネ効果は室内温度を26℃から2℃上げた場合） ※熱中症にご注意ください。	4.1%
	使用していないエリアは空調を停止する。	2.4%
	日中の日射を遮るために、ブラインド、カーテン、遮熱フィルム、ひさし、すだれを活用する。	3.7%
	冷凍機の冷水出口温度を高め設定し、ターボ冷凍機、ヒートポンプ等の動力を削減する。（セントラル空調の場合）	2.4%
OA機器	長時間席を離れるときはOA機器の電源を切るか、スタンバイモードにする。	2.8%

ご注意

- ・ 記載している省エネ効果は、建物全体の消費電力に対する目安です。
- ・ 空調についての省エネ効果は電気式空調を想定しています。
- ・ 一定の条件の下での試算結果ですので、各々の建物の利用状況により削減値は異なります。
- ・ 省エネを意識するあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものにならないようご注意ください。

■ オフィスビルの省エネ ■

省エネメニュー

照明	空室や昼休みなどでは可能な範囲で消灯する
	従来型蛍光灯器具を、LED照明器具に交換する。 (従来型蛍光灯器具から直管型LED照明器具に交換した場合、約50%消費電力を削減。)
	窓際等自然採光部分は消灯する。
空調	目詰まりしたフィルターを清掃する。
	電気室、サーバー室の空調設定温度が低すぎないかを確認し、見直す。
	室外機周辺の障害物を取り除くとともに、直射日光を避ける。
	排ガスによる放熱ロス避けるため、ガス吸収式冷温水機について空気比の適正化を図る。
OA機器	コピー機が複数台ある場合は、使用頻度に応じて稼働台数を減らす。
コンセント動力	電気式給湯器、給茶機、エアタオル等のプラグを可能な範囲でコンセントから抜く。
	温水洗浄便座は、可能な範囲で保温、温水の機能を停止する。
	自動販売機の管理者の協力の下、冷却停止時間の延長や省エネモードへの切り替え等を行う。
	混雑時以外はエレベータやエスカレータの稼働を停止又は台数を減らす。
その他	ディスプレイの明るさを下げ、不要時は消灯する。
	「クールビズ」を実施する。 デマンド監視装置を導入し、警報発生時に予め決めておいた省エネ対策を実施する。

【コラム】ディマンド・レスポンス

ディマンド・レスポンス（DR）とは、消費者が電力使用量や需要パターンを賢く変化させることで、需要と供給のバランスをとる取組です。例えば、電気が余っている時に蓄電池を充電し、電力が不足する時間に、その充電した電気を使うことで、需要と供給のバランスを保つことができます。DRを活用すると、太陽光や風力などの再生可能エネルギーをより有効に使うことに貢献できます。

ご注意

- 記載している省エネ効果は、建物全体の消費電力に対する目安です。
- 一定の条件の下での試算結果ですので、各々の建物の利用状況により削減値は異なります。
- 省エネを意識するあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものにならないようご注意ください。